

春陸にみる青春の頁 その1

今年も東部地区大会が終わった。
会場で選手たちの活躍を見るたび、自分の高校時代、そしてその緊張感を思い出す。やってきたことのすべてをかけるレースはいつみても良いものだ。
陸上には、それぞれの青春がある。



高校球児が甲子園を目指すように、春陸はインターハイ出場を全員が目指して臨む。試合成績はまちまちだが、大事なものは可能性にかけて必死に注ぎ込む時間だ。

「全国に行くつもりで必死になった時間」・・・。
この経験は何事にもかえようのない人生の宝ではないだろうか。

人生80余年という長さだが、高校時代はわずかに2年半程度。ほんの一瞬でしかないのだ。



★マイルは大会を一つにする

いつの時代も、どの大会も1600mRは感動を与えてくれる。
総合順位に大きく関わる大事なレースは、閉会式直前のセレモニーである。

1走の新美は2着でバトンを運んだ。2走は800mの入山・2年生だ。



入山はうまくオープンレーンを制していく。
さすが800mランナーだ。スピードもある。
(入山は後日、県大会で800m準決勝1分
57秒をマークする)



先頭は越谷西、春日部東が抜け出ている。
30m先行している。品田が追う。
3位～6位まで団子状態で不動岡、春高、
草加、春日部共栄がひしめく。
アンカー細谷にすべてがかかった。

アンカーのラスト30mで細谷が出た。



ゴール前、先行ランナーを一人かわした！



見事に4着。これによって総合得点で順位が1つ上がった。

1600mRの着順は大きな意味を持つ。

春高は東部新人戦で1600mR決勝に惜しくも残れなかった。

今回も100m200m、400mの個人レースで入賞者はなかったが、見事にマイルリレーでは決勝に進み、4着5点をたたき出した。

今大会、マイルレースの決勝に残ったチームで、個人短距離入賞者ゼロは春高だけ。まさにマイルの決勝にかけたチーム力と言える。

そして春高のタイムは新人戦からの比較で、1人あたり400mで1秒以上短縮した計算になる。陸上を知っているものなら「400mで1秒速くなる」という事の意味が分かるだろう。それに値する苦しい練習をしたという事だ。

この結果を見るだけでも、後輩の頑張りが心に沁みる。

その2へ